

資料 2

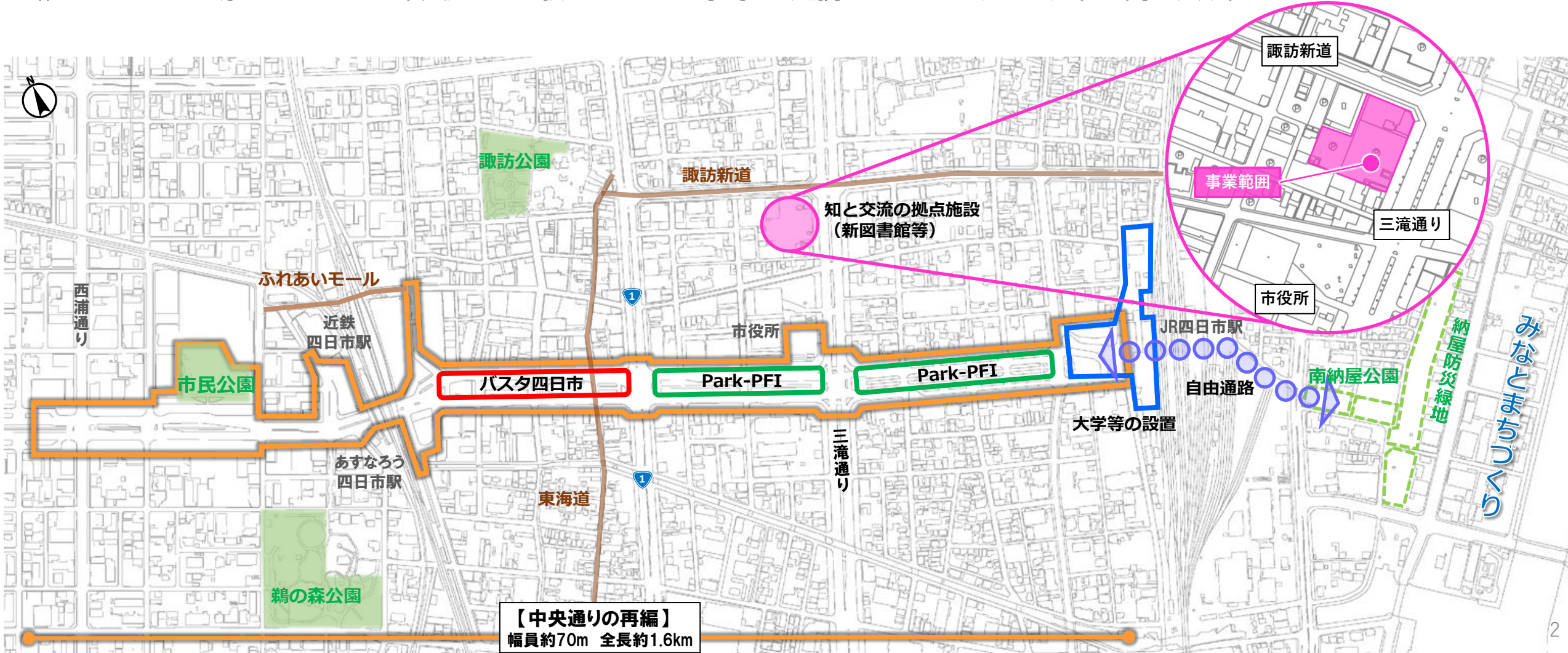
令和8年度第1回四日市市総合教育会議

知と交流の拠点施設（新図書館等）整備



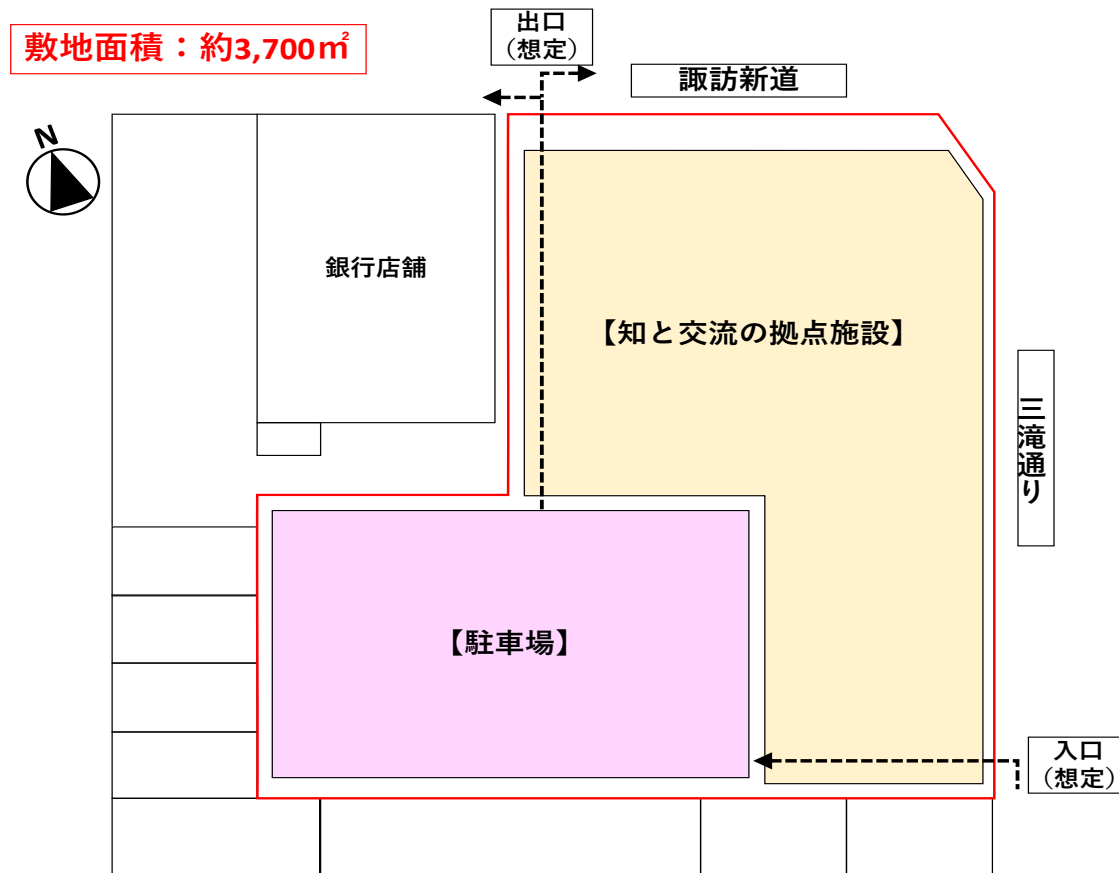
事業箇所

- ・知と交流の拠点施設（新図書館等）については、公共交通の利便性が高く、学生や高齢者をはじめ誰でもアクセスしやすい中心市街地の中で、近鉄四日市駅とJR四日市駅のほぼ中間に位置する「市役所北側」において、事業を進めている。
- ・この場所は、まちなかで行われる大四日市まつりなど、大規模イベントの会場となる諏訪新道と三滝通りに面するとともに、バスタ四日市の整備やPark-PFIの導入を進めている中央通り、JR駅前における大学等との連携により、まちなかの回遊性の向上が期待される。



建物配置のイメージ

- ・敷地面積は約3,700㎡となっており、拠点施設には200台程度の立体駐車場を併設する。
- ・拠点施設の1階部分に立体駐車場への車路を設け、2階以上に建物が入るピロティ形式を採用することで、敷地全体の有効活用を図る想定。



※建物配置の詳細については、今後、基本設計を進める中で固めていく。

【ピロティ形式のイメージ：くわなメディアライヴ】



ピロティ形式

導入機能のイメージ

○新図書館のコンセプト

『ICTにも対応し、日常の居場所となる全世代を対象とした「滞在型図書館」』

（※滞在型図書館：単なる図書の貸し借りの場ではなく、読書などで本を楽しみ、調べものや生涯学習もできる、ゆとりある空間を持ち、また、新たな情報や人に出会え、子どもから高齢者までの多世代が交流できる図書館。）

○導入機能

拠点施設では、「滞在型図書館」、様々なライフスタイルに対応したワークショップスペースなどの「多世代交流機能」、本市の魅力や各種イベント情報を発信する「情報発信・コミュニケーション機能」、幅広い市民が気軽に立ち寄れるカフェ等の「憩いの空間」を導入する。

加えて、これらの機能が融和し、各機能の相乗効果を高める拠点施設を目指す。

「滞在型図書館」

- ・一般成人エリア
- ・子どもと子育てエリア
- ・ティーンズエリア
- ・資料・情報（郷土）エリア

「多世代交流機能」

- ・交流スペース（発表の場、イベントの場）：多目的ホール等
- ・ワークショップスペース（練習の場）：会議室等

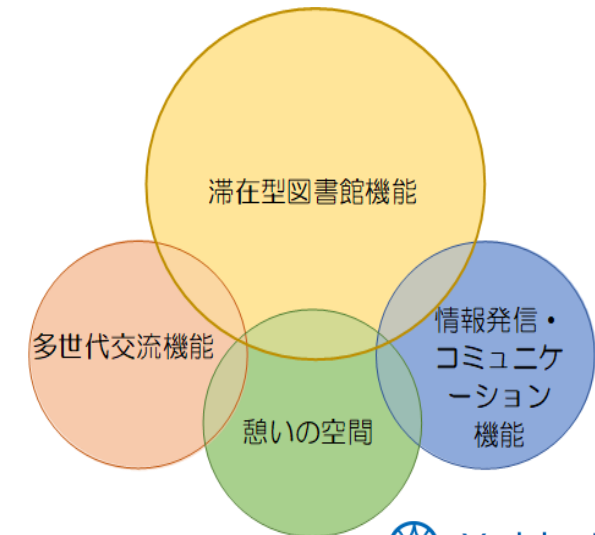
「情報発信・コミュニケーション機能」

- ・シティプロモーションスペース：地域情報等
- ・市民団体の紹介スペース：活動発信等

「憩いの空間」

- ・カフェスペース
- ・休憩、談話スペース

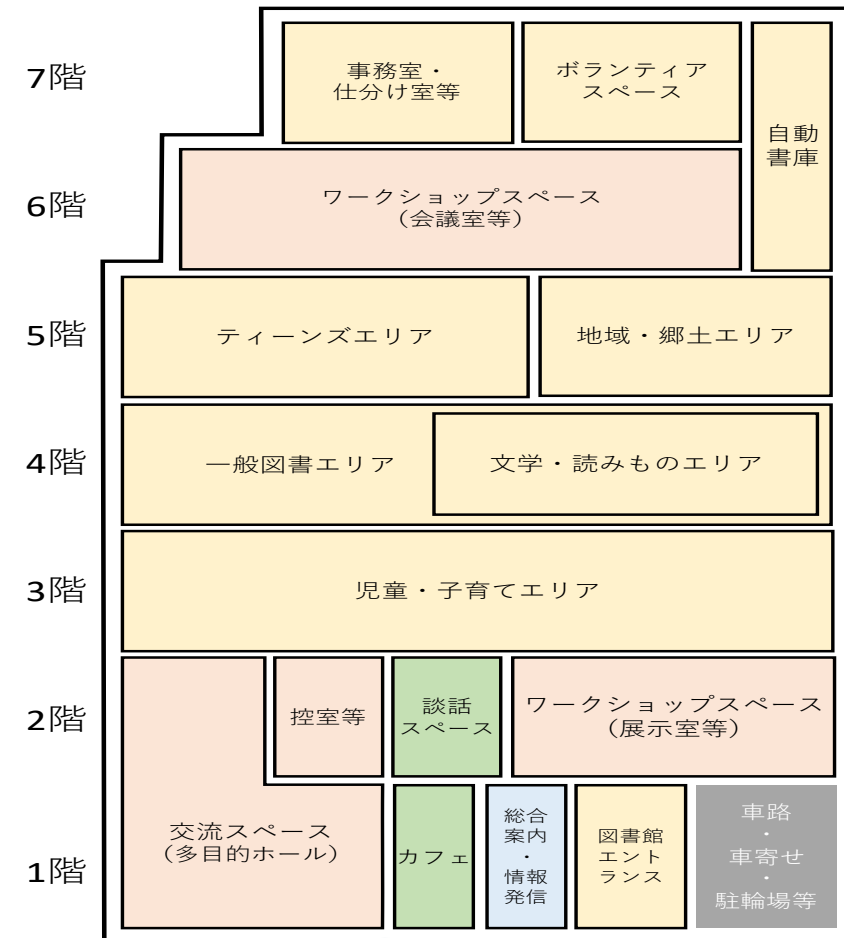
【機能配置のイメージ】



フロア構成のイメージ

【フロア構成のイメージ】

- ・延床面積は13,150㎡程度の想定



※フロア構成の詳細については、今後、基本設計を進める中で固めていく。

「施設全体の考え方」

- ・フロア構成としては、基本的には下階から上階に向かって、動（賑やか）→静（穏やか）になっていく流れとする。
- ・静けさを基本とするのではなく会話を許容する図書館としつつ、「静読室」などの個室を設けることで静寂へのニーズにも対応する。

「エリア配置の考え方」

- ・上下階のつながりを生む「吹抜け」を設ける。
- ・音楽や演劇、舞踊等の舞台公演に必要な音響等の舞台装置を備えた、市民グループが利用しやすい規模（200人程度）の多目的にも利用できるホールを1階に配置する。
- ・併設する立体駐車場とは複数のフロアで接続し、車での来館者の利便性を高める。

「滞在性を高めるための機能面の考え方」

- ・館内全体で、Wi-Fi環境の整備や、電源コンセントの配備等により、利用者の滞在快適性を高める。
- ・館内には、飲食可能なフリースペースも設ける。
- ・児童・子育てフロアには、子ども用トイレや授乳室、託児室の設置等、子どもを連れた利用者に配慮したつくりとする。
- ・10代の若者たちの居場所となる「ティーンズエリア」を配置する。

滞在型図書館のイメージ（プロポーザル実施時点での提案イメージ）

・公募型プロポーザルを実施し、基本設計者を(株)石本建築事務所に選定。(過去に、四日市港ポートビル、四日市市立博物館などを設計)

「滞在型図書館」のイメージ



※イメージについては、プロポーザル審査実施時点での提案であり、機能配置、建築計画、外観・内観等については、当該提案を踏まえ、今後の基本設計を進めながら検討し、具体化していくこととしています。

導入機能の事例

「多世代交流機能」の事例

(多目的ホール：岡崎市図書館交流プラザ「りぶら」)



「情報発信・コミュニケーション機能」の事例

(ぎふメディアコスモス)



「憩いの空間」の事例

(ぎふメディアコスモス)



- ・これまでに基本設計に着手。令和11年度中の開館を目指し、今年度中に基本設計をとりまとめる。
- ・基本設計に合わせて市民ワークショップを実施し、基本設計に反映していく。

外観イメージ（プロポーザル実施時点での提案イメージ）



※イメージについては、プロポーザル審査実施時点での提案であり、機能配置、建築計画、外観・内観等については、当該提案を踏まえ、今後の基本設計を進めながら検討し、具体化していくこととしています。

中心市街地再開発プロジェクトの波及効果

中心市街地再開発プロジェクトが本格的に動き出した令和元年以降、
四日市中心部ではホテル4棟、オフィス6棟、マンション31棟が着手及び竣工しています！
中心市街地(諏訪栄町)の地価公示価格は令和元年以降連続上昇、昨年比県下トップの上昇率6.9%

